みやこ映画生協の出前映画上映と、映画館の維持のためにご支援をお願いいたします。

岩手県生活協同組合連合会 会長理事
加藤　善正

みやこ映画生協は、大震災の被災者支援として、沿岸被災地中心に9市町村で178回7000人来場者にも及ぶ無料の出前上映会を避難所や仮設住宅、被災地公民館などで精力的に行ってきました。いわて生協や、日本ユニセフ協会はじめ、映画関係各社や多くの企業からの力強い支援もあり、被災地の子どもやお年寄り、住民の心の支えになっています。上映会場は癒しの場となり、多くの笑顔や喜びにあふれ、交流の場ともなりました。こうした支援活動は、被災地に日本で唯一の映画生協である「みやこ映画生協」があってこそ続けられる活動だと思います。

しかし、現在映画界はデジタル化がすすみ、今年の夏からは新作はデジタル映写機でなければ映写できなくなります。みやこ映画生協では、2つのスクリーン（85席と62席）を使い、一般的な映画上映の傍ら、ヒット作ではないけれど良質なドキュメンタリー映画なども上映してきましたが、そうした映画もデジタルで作成されるため上映は一層難しくなります。デジタル化のための映写機や設備は高額で、映写機2台を自前で調達することは困難です。すでに県内では、デジタル化のための支援カンパをスタートさせ、4月末現在700万円のご協力を得ましたが、夏までにあと1300万円必要です。

震災で傷ついた今だからこそ、映画の力が必要です。デジタル化を成功させ、出前映画上映も続け、映画の魅力をもっともっと知らせていきたい。みやこ映画生協は組合員にも、さらなる利用結集（鑑賞）を呼びかけ、三陸の沿岸唯一の映画館の灯を消さないよう、みなさんに上映を楽しんでもらえるよう頑張っています。何卒、支援募金にみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

地元からの支援メッセージ

三社自動車代表取締役
昭和通おかみさん会会長
松原　安子 さん

岩手県宮古市は、映画全盛期の昭和30年代は7館もの映画館がひしめく映画の町でした。

私自身そんな宮古市に生まれ、青春時代をまさに映画とともに過ごしてまいりました。

私が事務局を務めさせていただく「昭和通りおかみさん会」は、宮古末広町商店街の活性化を目的に、商店街の女性をメンバーとした、「おかみさん」の団体です。

会では、今までに様々な活動をしてまいりましたが、「裕次郎さんに会いたい」と題して石原裕次郎の映画を商店街全体で楽しむ取り組みもしてきました。

映画好きを自認致しております私としては「映画の町、宮古から映画館の灯りを消したくない。震災を乗り越えようとしている今、デジタル化の波をも跳ね返してほしい」そんな思いでいっぱいです。

地域コーディネートセンターみやこ
代表理事
金野　侑 さん

スクリーンを一心に見つめる人々。その空間からは笑みが溢れてきます。巡回上映会のお手伝いや、映画祭の中で何度もそういった光景を目にし、映画の力を感じました。

昨年11月に、みやこシネマリーンを会場に行われた「第1回みやこほっこり映画祭」。「人の温かさ、優しさ」、「穏やかな気質」、「言葉の美しさ」など宮古地域住民が感じている地域の美徳を「ほっこり」で表現し、共助による穏やかな復興期の空気感を醸成し、再認識を促す。そんな目的で、市民参加型の映画祭を行いました。

経済的・産業的な復興は大切なことです。しかし、これからは暮らしを彩る文化的な復興もますます必要です。そして、その中核を担うのが、三陸地域唯一の映画館「みやこシネマリーン」だと思います。

一筋の光が映す世界を届け、たくさんの笑顔を生み出すシネマリーン。応援しています！

支援募金にご協力ください。

募金は1口2000円　何口でも結構です。

＜振込み先＞　岩手銀行　宮古中央支店
普通口座　2125256
口座名義　みやこ映画生活協同組合

募金の件でのお問い合わせは、みやこ映画生協（みやこシネマリーン）または、岩手県生協連までお願いいたします。領収書等が必要な団体の方も、ご連絡ください。

目標額2000万円

第1次締め切り／5月31日
第2次締め切り／6月30日

4月末現在、募金額は700万円になりデジタル化1台の設置めどが立ちましたが、2台目標までまだ1300万円不足です。夏休みの子ども映画上映にも間に合わせるよう、ぜひとも支援募金へのご協力をお願いします。募金は、主にデジタル化のためと、被災地無料上映会などの運営経費にも一部あてることをご了承ください。

支援募金のお願い

被災地三陸沿岸から映画文化を消さないでください

映画のデジタル化によって、
みやこ映画生協
シネマリーン存亡の危機！
皆様の支援をお願い致します。

みやこ映画生協・岩手県生活協同組合連合会
みやこ映画生協／〒027-0038　宮古市小山田2-2-1 マリンコープDORA内
TEL.0193-64-5588　FAX.0193-64-5588　http://cinemarine.jimdo.com/
岩手県生活協同組合連合会／〒020-0180　岩手郡滝沢村字土沢220-3
TEL.019-684-2225　FAX.019-684-2227　http://iwate.kenren-coop.jp/

笑顔とふれあい＝映画が届けた明日への勇気と和み

東日本大震災～映画館再開

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、映画生協がある宮古市をはじめ三陸の市町村に前例のない壊滅的な被害をもたらしました。

一方、シネマリーンのあるマリンコープ DORA は、かろうじて津波の被害を免れ、映写設備も大きな被害はなく、職員の安否も確認でき、いつでも再開可能な状態でした。しかし、市内の「映画どころではない」惨状に、無期限の休館としました。

テレビは震災特集だけ、CM は自粛状態のなかで、「映画館はやっていないの？子どもが映画を楽しみにしている」という声が聞こえてくるようになりました。

「こんな時に映画なんて」ではなく「こんなときこそ映画」と、思い直し急きょ開館を決意したのは震災から2週間後の3月26日でした。

29 岩手 12版▲ 2011年(平成23年)6月16日 木曜日 3円

岩手

「映画が来た」避難児童ら笑顔

宮古のシネマリーン「つらい中で楽しい思い出を」

出前上映会開始、178カ所のべ7000人に

しかし実際に映画館に来られるのはほんの一握り。映画どころではない地域も少なくありません。「来られない子どもたちはどうしているのだろう。来られないならばいっそ映画を持っていこう。つらい現実の中ほんの 2 時間でも『楽しい時間＝映画』を、プレゼントしたい。」そういう思いで、出前上映会をスタートしました。

経営が苦しい中での活動は困難でしたが、いわて生協をはじめ様々な団体や個人から、たくさんの支援を頂き、田老地区避難所「グリーンピア三陸みやこ」からスタートし、北は野田村から、南は陸前高田市まで、岩手県沿岸 9 市町村 178 カ所のべ 7000 人以上の方に映画を楽しんでいただきました。

「映画＋α」の出前上映

子ども中心の上映会では、全国から集まった文具類などを届けたり、仮設住宅での上映会では、映画だけでなくお茶セットを持参しての茶話会なども開催したり、映画＋αで楽しんでもらいました。

目を輝かせてスクリーンに釘付けになる子、画面に向かって応援する子、テーマ曲が流れると手拍子が始まり、その後大合唱になった事もありました。年配の方々も懐かしい映画に大笑いしたり涙したり。真っ暗い中で皆で同じ空間を共有しスクリーンに引き込まれて楽しんでいる姿を目の当たりにし、忘れかけていた映画の本来の楽しみ方と、映画の持つ力の大きさを実感する事が出来ました。

映画による復興、「心の支援」

映画による復興、「心の支援」子どもたちから「楽しかった、ありがとう！また来てね」年配の方から「何十年ぶりで映画を見て楽しかったよ」の声にこちらも本当に嬉しくなり、この活動を続けて行く何よりの原動力になりました。

何を持って復興と言えるのかは分かりませんが、まだまだ仮設住宅でのつらい生活は続いて行きます。これからも映画文化を通じて被災地での「心の支援」が出来ればと思っています。

[応援メッセージ]

私も主人も宮古出身。娘はいつも好きなアニメの上映をチェックしていて上映を楽しみにして通ったものです。

震災後の上映…街にやっと映画館が戻ってきた…本当に嬉しかった事を思い出します。復興は少しずつ進んでいますが、目に見える景色はまだまだ心痛むものばかり…。そんな私達の心に灯りを灯すものの中に映画があると思います。シネマリーンは宮古にある唯一の映画館。シネマリーンの存続を強く願います。

介護士　坂田 留美子

[上映会参加者の声より]

- ●地元に映画館が無くて、遠くまで行って映画を見せる事がなかなかできないけどこうやって来てもらって、映画を観せてもらえるのは、本当に嬉しいです。
- ●「初めて映画を観た！」と喜んでました。こういった経験は初めてだったので、子どもたちも喜んでました。
- ●遊ぶところも少ないし、どうしても遊びといえばゲームばかりになっていますが、友達同士で映画を観るってイイですね。

被災地、岩手三陸で唯一の映画館「シネマリーン」
みんなの思いでつくった日本で唯一の映画生協

映画の町、宮古市

かつて娯楽の王様だった映画。大きなスクリーンの映像や迫力ある音響に興奮し、映画に魅せられて感動した思い出を多くの人がもち続けています。

しかし、テレビが普及し、娯楽が多様化し、ビデオレンタルが盛んになる中で映画は衰退し、地方都市の映画館は次々に閉館に追いやられてしまいました。

宮古市も最盛期には7 館もあった映画館が次々に閉館し、平成３年には大船渡以北の三陸地方では完全にその姿を消してしまいました。今世紀最高の総合芸術とも言われる映画のすばらしさや、その感動を日々の暮らしの中に生かす事が出来なくなってしまいました。

映画の素晴らしさをひとりでも多くの市民の暮らしに取り戻したいという願いを込めて、平成４年10 月に誕生したのが「みやこシネクラブ」です。多くの市民や行政のバックアップにより、宮古市民文化会館を会場に、年 7 回以上の自主上映を成功させて来ました。

この上映会には宮古市内だけでなく近隣市町村からも毎回 500 ～2500 人もの映画ファンが押し寄せ、その中から、自分たちで運営出来る映画館を作りたいという声が高まって来ました。

日本で唯一の映画生協発足

ちょうどその頃、宮古地区では住民の過半数の組合員で組織する「いわて生協」大型ショッピングセンター（マリンコープ DORA）建設の構想がある事を知り、千載一遇のチャンスと映画館建設を要請しました。しかし、映画人口が減少する中での映画館経営は難しさもあり慎重な検討を重ねた結果、ついに一つの道を選びました。

それは映画館を運営する新しい生活協同組合を設立する事でした。しかし、映画を扱う生協は、全国でも例がないので難しく、やっと認可され、97 年 3 月に発足したのが「みやこ映画生協＝みやこシネマリーン」です。

いわて生協 マリンコープDORA

入館者数	座席数	デジタル化の費用
2001年…5万人（ピーク時） 2010年…2万人 2011年…1万7千人（震災により減少）	スクリーン1：85席 スクリーン2：62席	合計1,950万円＝975万円×2スクリーン 1スクリーン当り ●DLPプロジェクター（サーバー内蔵）／700万円●ランプ2本／25万円 ●DLP設置調整費／50万円●配送・電気配線・排気その他／50万円 ●デジタル音響プロセッサー／50万円●10年有償保証／100万円

震災に追い打ちをかけるようなデジタル化の波、今存亡の危機！

映画のデジタル化

銀塩のフィルムで撮影した作品を、映写機でスクリーンに投影するという、映画のスタイルが、今大きく変わろうとしています。急速に進むデジタル化です。

国内でも、その流れは本格化し、全国約3300スクリーンの約7割を占める大手シネコン１０社は、設備導入を完了しています。全国の映画館でも約85%がデジタル対応です。

デジタル化には膨大な費用が！

デジタル化に対応するための、サーバーやプロジェクター、音響など専用設備の設置費用は、1スクリーン当り約１千万円と莫大な費用がかかります。その費用は、大手資本のシネコンとは違い、地方都市の映画館にとっては、極めて厳しい金額で、閉館するという声も聞こえて来ています。

シネマリーンでも例外ではなく、このままでは閉館を余儀なくされてしまいます。大震災での津波の被害を免れた今、デジタル化の波で映画の幕を下ろすのは非常に悔しい事です。

無料出前上映を続けながら映画ファンを増やしていきたい

シネマリーンの入館者数も全国と同じように入場者数は年々減少しています。東日本大震災の影響でさらに減少し、今回デジタル化しただけでは入場者数は増えません。しかし、迫力ある画面でみたときの映画の魅力は家庭のテレビでは得がたいものです。今回の出前上映会の鑑賞で、改めて映画の魅力に引き込まれた方もたくさんいます。デジタル化を成功させ、三陸沿岸で唯一の映画館を守りたい。そして沿岸の皆さんへの出前上映を続けながら、映画の魅力も伝えていきたい。震災で傷ついた今だからこそ映画の力が必要です。

デジタル化のための費用と、出前上映継続費用の一部にあてるため、募金への皆さまのご支援を心からお願い申し上げます。